

## 式辞

まず初めにお伝えしたいことがあります。本来なら本科入学生、編入学生、専攻科入学生が一堂に会し、入学式を行うところですが、新型コロナウイルス感染症拡大防止への対応から、従来の入学式と異なり、各キャンパスで分散縮小した入学式を行うことになりました。皆さんや保護者の方のお気持ちを思うと残念ですが、ご理解ください。

さて、品川キャンパス（荒川キャンパス）に本科151名（162名）の新入生、第4学年に1名（2名）の編入学生、そして専攻科26名（10名）の新入生の皆さん、入学おめでとうございます。入学試験を見事に突破し、本校への入学の栄冠を勝ち得た皆さんに、心からお祝いを申し上げます。そして若くして技術者の道を選択されたことに敬服します。

東京都立産業技術高専は平成18年に東京都立工業高等専門学校と東京都立航空工業高等専門学校を発展的に統合し、科学技術の高度化や複合化に応えるため、8つの特徴的な教育コースを基に、専門性の高い実践的な技術者の育成を目指して設立されました。また、平成28年度からは、産業界の強い要望に応え、情報セキュリティ技術者育成プログラムと航空技術者育成プログラムを新たに実施しています。

この3月、卒業を迎えた本校の卒業生は、本人の努力はもちろん、先輩たちが築いてきた本校への高い信頼から、就職希望者は約100%がそれぞれの希望の就職先に巣立っていきました。また、進学希望者は、国公立大学や専攻科に進学しました。そして本日、東京都立産業技術高等専門学校の一員となった皆さんには、先輩たちが築いてきた信頼を今後も引き継ぎ、世界で活躍する技術者を目指して勉学に励むことを願っています。

さて、新入生の皆さんは、これから何を学びますか？ 皆さんは1年次では全員、機械、電気・電子、情報工学の基礎をしっかりと学び、2年次で皆さんが学びたい8つの教育コースから希望するコースを選び「実践的技術者としての能力」を養ってもらいます。

皆さんは技術者をどのように考えていますか？ 技術者には、専門知識を用いて、社会・産業の問題に応える研究開発や設計、製品の製造やサービスの提供を行うことが期待されています。そのためには、各コースの授業で工学の基礎知識や技術を身に付けることが必要です。

ここで、皆さんに二つのお願いがあります。

一つ目は、自分でどのような技術者になるか“夢”を持ちその夢の実現に向かって努力を続けることです。昨年、吉野彰先生がリチウムイオン電池の開発でノーベル化学賞を受賞しました。先生は旭化成という会社で何度も失敗を繰り返し、試行錯誤の末、基礎理論を確立し、その後十数年かけて製品の開発にこぎつけました。アメリカの自動車会社のフォードを創ったヘンリーフォードの言葉に「努力が効果をあらわすまでには時間がかかる。多く人はそれまでに飽き、迷い、挫折する。」があります。どんな時も、決して諦めず夢に向かって進んでください。

二つ目は、積極的に対話をすることです。技術の創生や真理の追究は決して一人ではできません。他者との対話が無ければなりません。他者に言葉を発し、他者の考えと向き合うことが必要です。考え方の違う人と対話をする。また、自分自身との対話もあります。対話をすることによって自分の考えを整理し確認をすることができます。先日、テレビで2002年にノーベル化学賞を受賞した島津製作所の田中耕一先生が、将来ノーベル賞を目指す技術者に必要なものの一つとして「他人と対話する能力（コミュニケーション能力）」を挙げていらっしゃいました。

世界は、次代を担う皆さんの柔軟な発想と行動力を求めています。「地球環境が適切に保全され、将来の世代が必要とするものを損なうことなく、現在の世代の要求を満たすような開発が行われている社会」を目指して、本日ここに集った多くの仲間とともに東京都立産業技術高等専門学校という舞台でみなさんが主役になってそれぞれの夢を叶えてください。我々教職員は、全力で皆さんを応援します。

最後に、私たちは今、新型コロナウイルスによる感染という試練に直面しています。各個人が状況を正確に把握し、責任ある行動をしてこの見えざる敵にしっかり立ち向かいましょう。

令和2年4月3日

東京都立産業技術高等専門学校

校長 渡辺和人